

小机城跡(横浜市)

築城年代:室町時代中期、築城者:上杉氏

JR横浜線の小机駅ホームから西方向を見ると小机城跡が展開する丘陵が見える/右手に本丸や二の丸、左手には古城跡が所在する



縄張図/城跡はJR横浜線と第三京浜(縦線)により分断されているが、遺構は良好に残っている/南側の金剛寺の辺りが古城跡





前方が本丸や二の丸が所在するエリア/手前に「小机市民の森」という行き先表示が立っている





小机城跡(横浜市)/12世紀以降、関東管領上杉氏によって築かれたようだがその後、茅ヶ崎城跡と同様に小田原北条氏によって堅固な縄張りに
改変されたと云う/現在は「小机城址市民の森」という公園として保存整備されている



この辺りは根古谷のエリア



その少し左手にはJR横浜線が通っており、右手に本丸や二の丸、左手には古城跡が所在する



こちらが古城跡/12世紀以降、最初に関東管領上杉氏によって築かれたエリアがこここのようだ



少し進むと第三京浜の高架が見えて来る/その手前を右手に入っていく



小机城址への案内がある



ここを登って行く/この辺りも根古谷のエリア



前方は竹林となっている/右手に進む



説明坂、標柱とトイレの建物が見える





見上げるとかなりの急斜面となっている





↑東京

小机
スポーツ会館

手洗
水飲み場
ベンチ
テーブルベンチ
バスのりば

ふじせんげん
富士仙元

駅

第三京浜

JR横浜線

→
日産スタジアム

二の丸広場



せいらのあと
井楼跡

本丸広場



やくらあと
櫓跡

からほり
空堀

現在位置

ねこや
根古谷



そこで振り返って今来た方向を見ると線路の向こうに古城跡が見える



アップで見たところ



さて、根古谷から左手に本丸広場へと進もう



遊歩道が整備されている/一面が竹林となっている



これは右手の竹林を見上げたところ



これは左手の竹林を下から見上げたところ



遊歩道は右手に折れて行く



そして遊歩道はこの先で右手(東方向)と左手(西方向)の二股に分かれている



振り返って竹林を見たところ/平場のようにになっている所があり、腰曲輪なのかも知れない



その左手を見たところ/腰曲輪の雰囲気を感じられる



さて、二股の右手(東方向)を進むと大手とされる所に出るようだが、後程行ってみよう



まずは反対の西方向へと進もう



前方を右手に折れると本丸がある



ここを右手なのだが、左手は第三京浜の高架の所へ下りて行くルートで、正面は本丸虎口の手前にある浅い堀



こんな浅い堀であるが、馬出しのような一寸した平場(右手)を取り巻いている



こんな風に右手に回り込んでいる



さて、こちらが右手の本丸方向/左手が今の馬出し/前方に本丸の模擬冠木門が見える



ここは本丸への虎口/土橋を渡った向こうに模擬冠木門が見える/土橋の両サイドは本丸を囲む空堀



空堀（からぼり）

堀は土墨と共に城の守備・攻撃の為の重要な施設で、人工的に作られるものや地形を利用したものがあります。

この堀は水をはらない堀で空堀と呼ばれ、水をはる為に堀勾配のゆるい水堀よりも堅固な施設と言えます。



右手の空堀を見たところ



左手の空堀を見たところ



模擬冠木門の向こうが本丸/両サイドは土塁



振り返って土橋を見たところ/折れを持っている



そこで右手を見たところ/土塁が続いている



同じく左手を見たところ/土塁が続いている/左手前に標柱が見える





土塁の先をアップで見たところ



これは北西側から本丸を見たところ



左手を見たところ



右手を見たところ/本丸の周囲を土塁が回っている



これは本丸側から模擬冠木門を見たところ



ここが一応、本丸とされているが二の丸が本当の本丸ではないとも云われる



左手から見たところ



右手から見たところ



少し退いて見たところ/土塁の感じが見て取れる



本丸の南東隅の土塁上から北西方向を見たところ/説明板が立っている



左手に土塁を見たところ



同じく右手に土塁を見たところ



両面に説明が記されている



城郭全体を二重土塁が取り巻く縄張で小田原北条氏特有の築城法になっており、茅ヶ崎城とも共通するようだ

小机城想定図



小机城の縄張

半島形の突出た丘陵の上部を大きく平に削り、一列に三つ程度の曲輪を置き、その並んでいる曲輪の側面に腰、帯曲輪を築きます。

また、城郭全体を二重の土塁を空堀でぐるりとめぐらす縄張で後北条氏特有の築城法と言えます。

類例より後北条、後半の築城方式で、東京都、埼玉県など戦国期の丘陵城郭の多くがこの型で県下では、茅ヶ崎城も典型といえます。

なわばり

くるわ

縄張と曲輪について

縄張とは、目的が定まった地が決定した後その広さを決定し、曲輪の配地、道のつけ方、門の開き方、水の便などを定めることであります。

この地取と縄張を総称して「城取」といい、城取は武士が行いました。

曲輪とは城を構成する区画、すなわち削平された地、それぞれ防備地帯、兵営の場、館の立地される場をいいます。

小机城について

築城の年代は明らかではありませんが、おそらく、このあたりがひらけた十二世紀以降ではないかと思われれます。その頃は、このあたりは上杉氏の勢力下であり、西方には、その支配下の榎下城があったことから、それとかかわりのある城と思われれます。

その後、山内上杉家の家臣長尾景春が、家督争いに端を発して反乱を起した時、景春に味方した矢野兵庫助らが城にたてこもり、北方の亀之甲山（現在の新羽町亀ノ平橋付近）に帯陣した上杉方の太田道灌の率いる軍と戦いました。

城は文明十年（一四五九）攻め落とされ、上杉氏もやがて北条早雲に追われ、小田原北条の領地となり、四十年間廃城となっていました。

大永四年（一五二四）一族の北条氏堯の城となり、笠原越前守信為を城代として再興しました。

小机は地理的に、江戸、玉縄、榎下などの諸城を結ぶ位置にあり、この地は以後軍事、経済の両面で極めて重要な役割を果すこととなります。

豊臣秀吉が小田原城を攻め落とし、やがて小田原北条氏が亡び、四代目城主の弥次平衛重政が徳川家の家臣として二〇〇石の知行を与えられ、近くの台村（緑区台村）に住むことになり、小机城は廃城、その歴史を閉じることになりました。

裏側



中世の城について

中世（九世紀～十五世紀）に築かれた城は

天然の地形を利用し、小机城で理解できるように、半島状に突き出た丘陵や台地の先端部を城地したものが多く、その設備も櫓（やぐら）、木柵などのほか小規模な土塁（どるい）や空堀（からぼり）の共なう程度で、居館・住館は多くは城外にありました。

横浜市内には、小机城の他、青木城・榎下城・馬場城・荏田城などがあったと言われていますが、調査されたものは榎下城だけで、その他については、かつての城の位置が推定される程度で、その実態は明らかではありません。

また、中世の城郭は、近世に築かれた大規模な「城」とはその機能・性格が異なるものと考えられ、城郭史の上でも比較的未開拓の分野と言われています。

横浜市内城址の分布図



さて、次は本丸から東方向の櫓跡・井楼跡・二の丸へと進もう



これは本丸から土橋越しに、二の丸の井楼跡手前にある櫓跡(土塁)を見たところ



櫓跡(土塁)手前の両サイドは空堀





空堀（からぼり）

本丸跡の防備と敵の攻撃に
対抗するための堀で、この城址
では、堀上部の幅十二・七メ
ートル、堀底の幅五・〇メー
ートル、深さ十二・〇メートルか
らなる水をはらない空堀です。
空堀の堀幅や深さはまちま
ちですが、調査によると、中
世の山城は三・〇メートル、平
山城は九・〇メートルから十
二メートルがその平均の堀幅
になっています。

土橋を見たところ



左手を見たところ



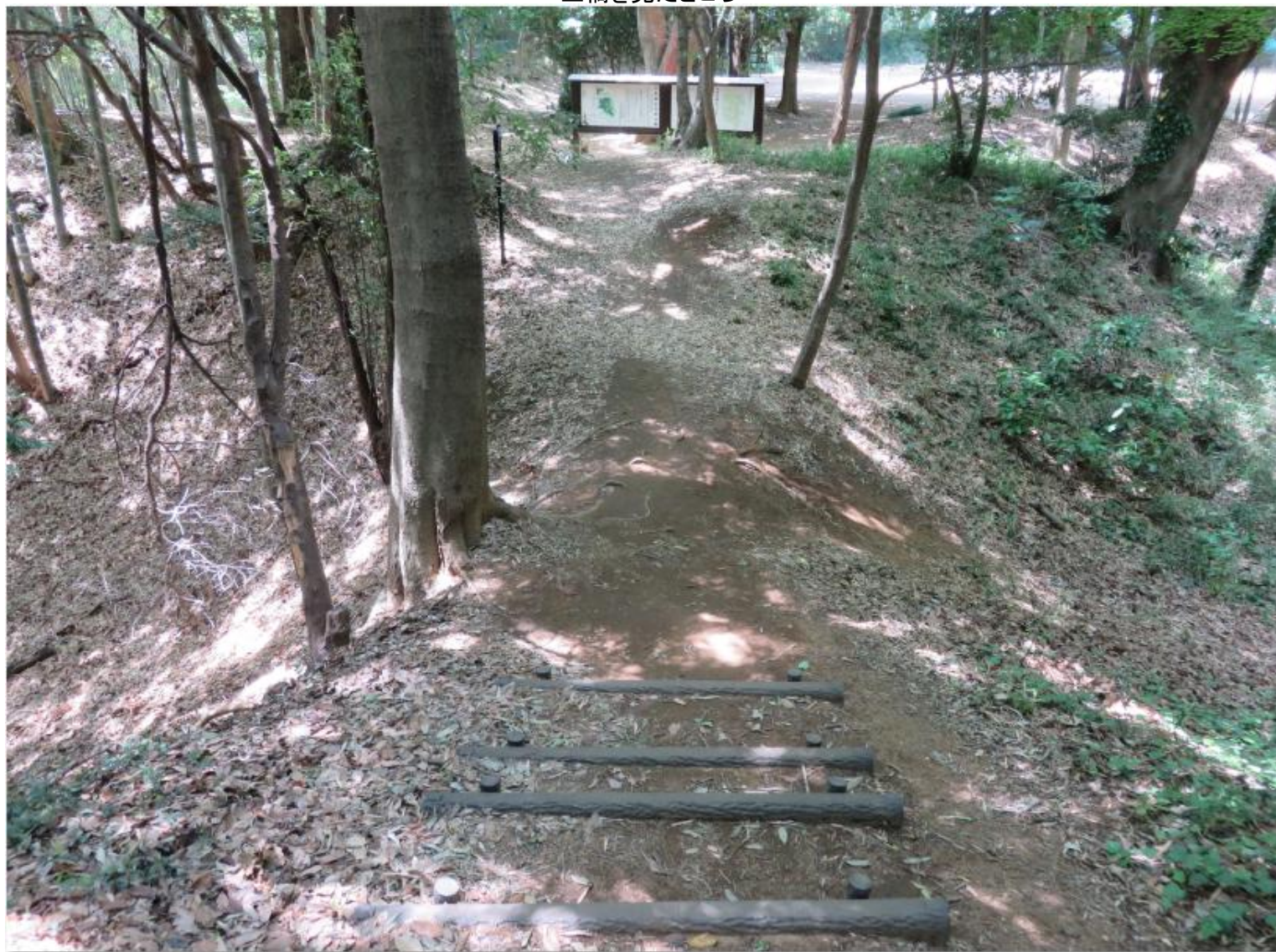
右手を見たところ



その櫓跡(土塁)から振り返って本丸方向を見たところ



土橋を見たところ



左手を見たところ



その先はこんな塩梅



右手を見たところ



その先はこんな塩梅



振り返って東方向を見ると二の丸の井楼跡が見える



そこで右手の櫓跡(土塁)を見たところ/右手に矢倉跡と記された標柱が立っている



そこを進んでみる(南方向に進む)/左手に説明坂が立っている



櫓台、矢倉台と表記は変わるが、いずれにしても見張り台の機能を有した土塁である



その先はこんな塩梅で、下に空堀が見える



そこで振り返って北方向を見たところ



左手を見下ろしたところ



右手を見下ろしたところ



さて、今度は反対の土塁上を進んでみよう



馬の背のような土塁



その先はこんな塩梅



そこで左手を見下ろしたところ



同じく右手を見下ろしたところ



堀底へ下りてみよう



空堀の向こうは本丸



右手を見たところ/前方の階段で本丸に登れる



振り返って今の土塁を見たところ



その右手を見たところ/空堀の向こうに先程見た本丸にあった説明坂が見える



その空堀を土塁に沿って見たところ/右手が本丸



さて、ここが二の丸の井楼跡



振り返ると土塁(櫓台)が見える/右手にも説明板が立っている



ここでは土墨という表記になっている



左手を見たところ/こちらへも下りて行けるようだが、後程行ってみよう



右手を見たところ



同じくこちらへも下りて行けるようだが、後程行ってみよう



さて、ここは井楼跡でその向こうに二の丸広場が見える



左手を見ると、これが井楼跡の檜台



櫓台(やぐらだい)

一城には、数箇所の櫓台が置かれています。この櫓台跡もその一つで土塁と連続して作られていました。

現在は畑地として土塁は取りさられています。昔は井楼跡より二の丸広場へ通じる散策道の上に土塁が作られていました。



これは振り返って土塁方向を見たところ/このエリアが井楼跡と云う事か



左手を見たところ/説明板が立っている



櫓台（やぐらだい）

一城には、数箇所櫓台が置かれています。この櫓台跡もその一つで土塁と連続して作られていました。

現在は畑地として土塁は取りさられています。昔は井楼跡より二の丸広場へ通じる散策道の上に土塁が作られていました。



さて、これは井楼跡の櫓台を反対側から見たところ



櫓台（やぐらだい）

櫓（やぐら）は、矢蔵すなわち兵庫や高櫓（こうろう）井楼（せいろう）と呼ばれる「火の見やぐら」のような見張台を言います。

そして、近世初期（十五〜十六世紀）の成郭の天守閣の源流と考えられます。天守のない時代に展望を目的とした櫓台があったと思われま

いやはや、同じものが何枚もありすぎ



檜台に登ってみよう





反対側から見たところ



そこから西側を見下ろすと空堀が見える



同じく東側を見ると、ここが二の丸



こちらは二の丸の北側



こな塩梅



北東隅から二の丸を南西方向に見たところ



二の丸の南東隅にこんな所があった



下りてみるとこんな塩梅



これは堅堀なのかも知れない



右手から見たところ/いかにもと云った塩梅



そこで右手下を見ると腰曲輪と思える平場が見える



さて、次は先程の井楼跡手前にあった北側へ下りる階段から二の丸の堀底を時計回りに半周してみよう



ここを下りて進む



右手は二の丸、左手が土塁/正面は北側の二重土塁



右手に二の丸を時計回りに半周する/左手に進むと本丸へ至る



こちらが右手



こちらが左手



左手の方向を見たところ/前方は本丸/両サイドは土塁でその間は空堀



空堀（からぼり）

堀は土塁と共に城の守備・攻撃の為の重要な施設で、人工的に作られるものや地形を利用したものがあります。

この堀は水をはらない堀で空堀と呼ばれ、水をはる為に堀勾配のゆるい水堀よりも堅固な施設と言えます。



さて、右手の遊歩道(空堀)を進もう/左手は北側の二重土塁、右手が二の丸/右端に説明坂が立っている



モウソウチク(孟宗竹)

中国の原産で沖縄、鹿児島を
經由して現在は日本各地にみら
れます。また日本にある竹類で
最大のものです。

孟宗竹は中国名でなく冬に母
の為筍(たけのこ)を掘り採った
孝行な子供の孟宗にちなんで名
付けられました。横浜のモウノ
ウ竹林も年々少なくなっていま
す。大切に保存しましょう。

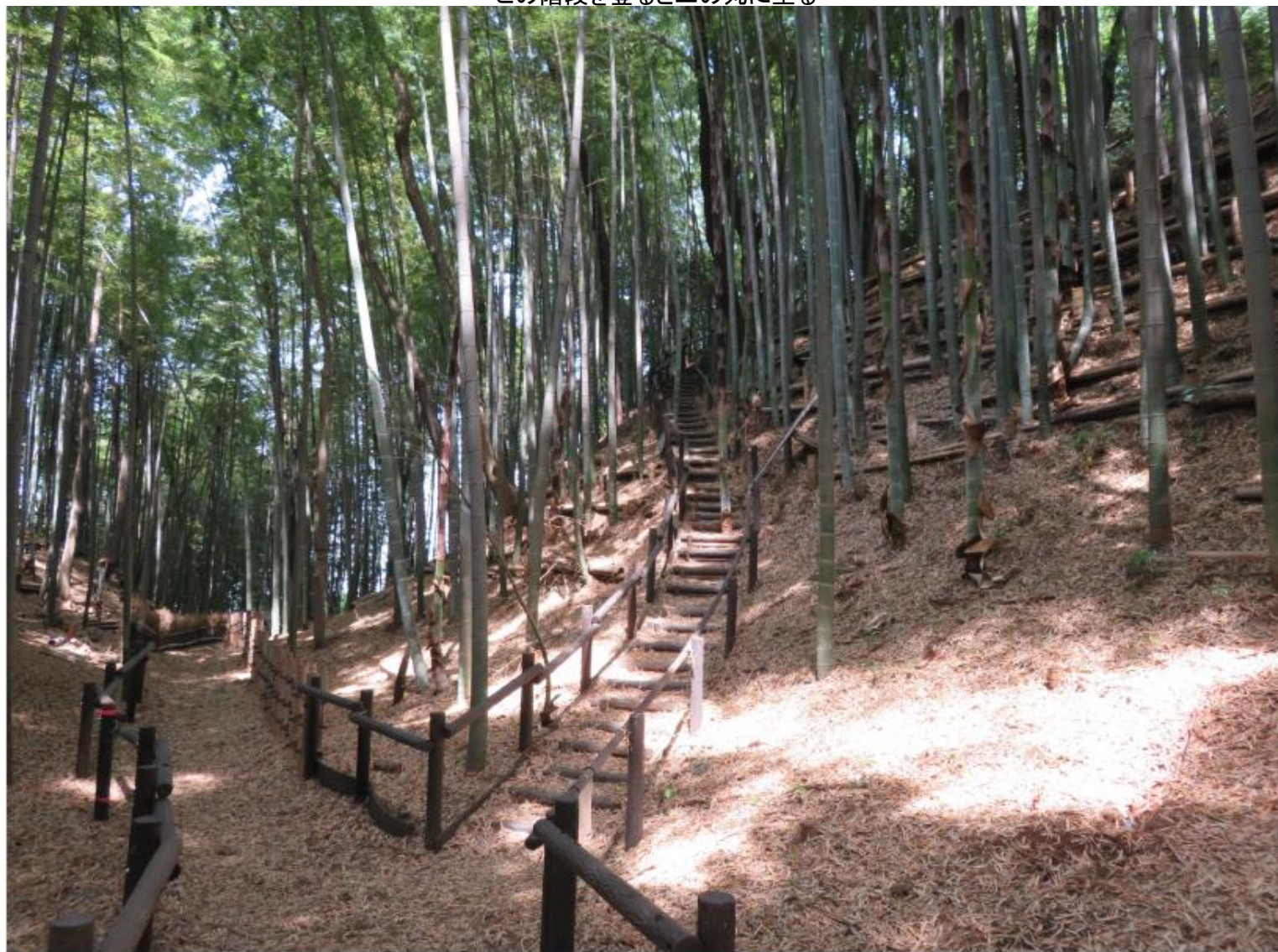
振り返って見たところ/左手が二の丸、右手と正面は土塁/左手の階段を登ると井楼跡、右手へ行くと本丸



更に進もう/少し先の右手に階段が見える



この階段を登ると二の丸に至る



更に二の丸(右手)を右手に回り込む



左手の二重土塁を見たところ



右手の二の丸の城壘を見たところ



更に北側に回り込んで進む/左手に説明板が立っている





竹の利用

竹は弾力性に富み、たてにさげやすく、腐りにくい為、昔から建築材として、また道具作りの材料として、生活にはかせないものでした。

現在は多くの道具がプラスチック等にかわっていますが、もう一度竹を見直してはいかがでしょうか。

更に進む



そこで左手を見ると「この先私有地につき立入禁止」と記された扉があった/説明坂によるとこの先に櫓台があるようだが



振り返って二の丸の城塁を見たところ



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



更に回り込むと前方に階段が見える/右手は二の丸の城塁、左手は二重土塁



この階段を登ると二の丸に至る



左手の先を見ると緩やかに下がっている



こな塩梅



下の方には平場があるようだ/説明坂では二の丸を取り巻く帯曲輪のようだが



さて、階段を登ってみよう



二の丸に出た



さて、次は井楼跡手前から南方向に土塁に沿って下りて、南側の空堀へと進んでみよう



ここを左手に下りて行く



左手に平場が見える



前方の右手に土塁を回り込む様に空堀が見える



左手の平場(二の丸南側の腰曲輪のようだ)を見たところ/左手は二の丸手前の井楼跡のあった城塁



この右手が空堀



まっすぐ進むと大手のようだが、後程行ってみよう



さて、ここが右手の空堀





空堀（からぼり）

堀は土墨と共に城の守備・攻撃の為の重要な施設で、人工的に作られるものや地形を利用したものがあります。

この堀は水をはらない堀で空堀と呼ばれ、水をはる為には堀勾配のゆるい水堀よりも堅固な施設と言えます。

この南側の空堀を西方向に進んでみよう



右手は本丸と井楼跡の間にあった土塁(櫓台)/左手はその外側にある二重土塁



正面は本丸の城塁で、空堀はここで左手方向の本丸南側の空堀と、右手方向の本丸と右手の土塁（櫓台）との間の空堀に枝分かれしている



こちらが右手方向の本丸と右手の土塁(櫓台)との間の空堀



そこを少し進むと本丸と土塁(櫓台)との間の土橋が見える



そこで左手(本丸方向)を見たところ



同じく右手の土塁(櫓台)を見たところ



振り返って南方向を見たところ/左手が今進んで来た空堀/右手が本丸南側の空堀



左手の今進んで来た空堀を見たところ



同じく右手の本丸南側の空堀を見たところ



では、右手の本丸南側の空堀を西方向へ進んでみよう



すると前方に最初に渡った本丸虎口の土橋が見える



こんな塩梅/土橋の右手に本丸の模擬冠木門がある



振り返って今進んで来た方向を見たところ/左手が本丸、右手は外側の二重土塁



さて、空堀を元の場所まで引き返し、大手とされる南方向へ進んでみよう



平場となっていて、小さな社がある



こんな塩梅/平場に進んで振り返って見たところ



その左手を見たところ/正面の遊歩道を西方向に進むと一番最初に本丸方向と枝分かれした二股の所に出る



その更に左手を見ると南下にも平場があるようだ/トラロープが張ってある



こんな塩梅/左手に鳥居と石祠が見える/こちらからのアクセスが大手道であったのだろうか



南下に下りて、その鳥居と石祠を見たところ/ここは民家の裏庭になっており、民家の守り神であるようだ/そのためのトラロープか



さて、二の丸を時計回りに半周した遊歩道(空堀)から西方向に分かれる本丸方向への遊歩道(空堀)を進んで、本丸北側下の空堀と帶曲輪を見てみよう



この本丸方向への遊歩道(空堀)を進む/前方に本丸の城壘が見える



正面が本丸北側下の空堀/左手が本丸の城壘、右手は北側の二重土塁



その空堀の先はこんな塩梅



遊歩道から本丸へ登ったところ



振り返って登って来た階段を見たところ



その左手を見ると説明板が立っている



その更に左手を見たところ/正面は本丸北側を回る土塁/この右下は本丸北側の空堀



その本丸北側の空堀を見下ろしたところ/空堀の向こうは二重土塁



堀底に下りて東方向を見たところ



その先はこんな塩梅で前方に二の丸の城壘が見える/右手は本丸、左手は二重土塁



振り返って西方向を見たところ/左手が本丸の城壘、右手が二重土塁



その先に進んでみたところ



この先は第三京浜の道路が下の方に見える/本来はこの先にも空堀が本丸を取り巻くように続いていたらしい



これはそこで振り返って東方向を見たところ



元の場所に戻り左手を見ると二重土塁に切れ目がある/右手は本丸の城塁



こな塩梅



その先を見ると下に平場が見える



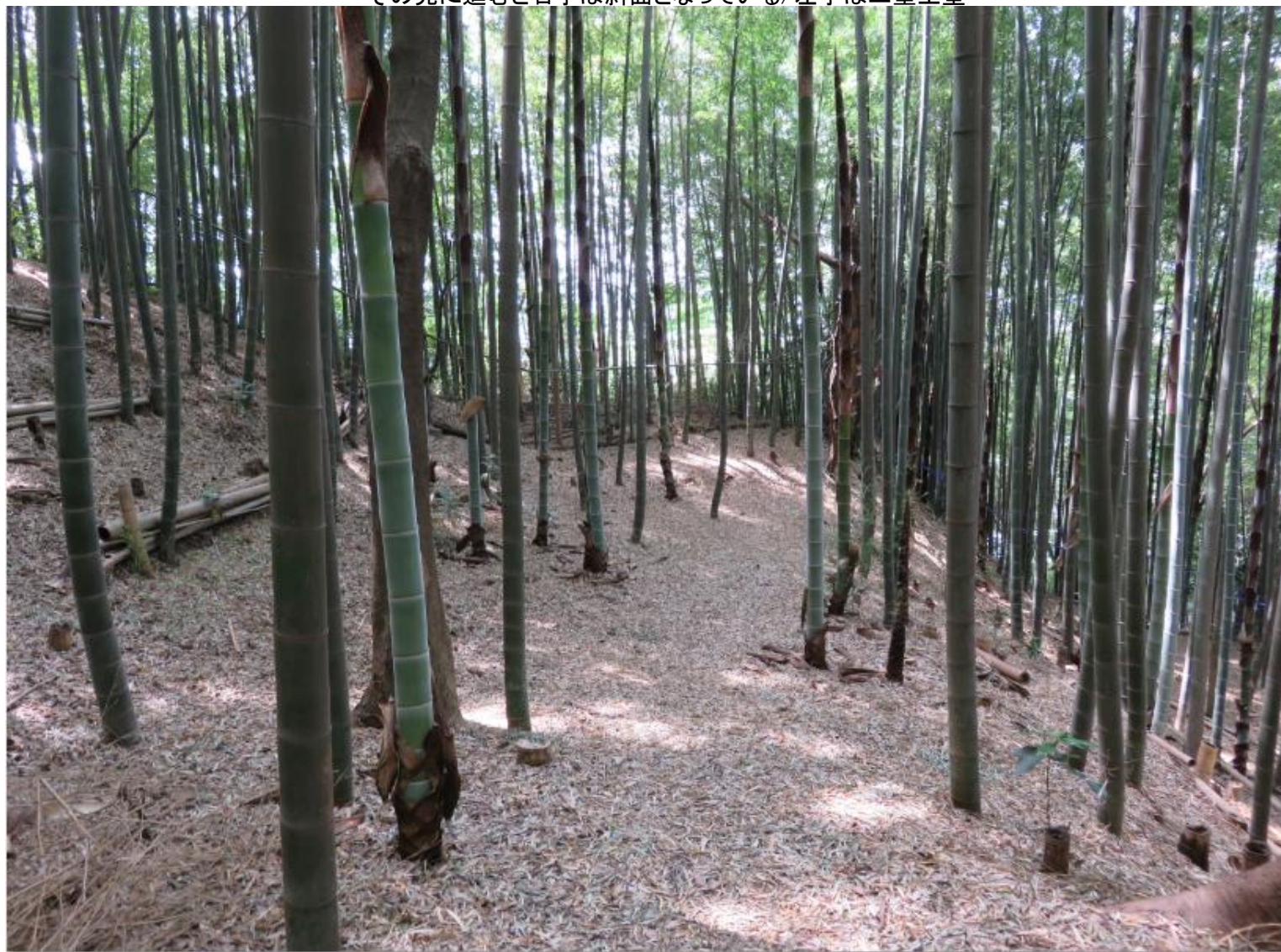
その平場に下りて右手(東方向)を見たところ



振り返って西方向を見たところ/ここは帯曲輪のようだ



その先に進むと右手は斜面となっている/左手は二重土塁



その右手の斜面を下りて見上げたところ/右手は第三京浜の道路が下の方に見える



そこで左手を見たところ/このレベルも緩やかな平場となっている/これらも帯曲輪のようだ



さて、それでは本丸虎口手前から第三京浜で分断されてしまった西側の城域にある富士仙元(櫓台)及び古城のあった金剛寺へと進んでみよう



本丸虎口手前から左手前方へと進んでみよう



するとその先に堀切と土橋がある



土橋を渡って振り返って見たところ



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



その先に進もう/ここから階段を下りる/フェンスの右手は第三京浜が走る



階段を下りて振り返ったところ



左手には古城跡のエリアが見える



右手には第三京浜を潜るJR横浜線の線路が見える



第三京浜のトンネルを潜ってこの階段を登る



富士仙元と記された標柱が立っている



そこから東方向に小机城跡が見えた/下は第三京浜



左手を見たところ



さて、南方方向に進んでみよう



すると前方に大きなマウンドがある



これが富士仙元(檜台)/江戸時代に富士浅間信仰の富士塚として扱われたようだ



別の角度から見たところ



ここから頂部に登ってみよう



登り口にこんな石碑があった/「大天狗 小天狗 小御嶽石尊大権現」と記されている



頂部にも石碑が立っていた/「富士仙元大菩薩」と記されている



さて、更に南方向に進んでみよう



前方に平場がある/ここも城域の一部のようだ



結構な広さだ/両サイドは急峻な斜面となっている



更に南方向へ進む/前方が堀跡と云う



振り返ってその堀跡を見たところ



住宅開発でこの地盤はかなり削られているため、堀跡と同レベルとなっているようだ



振り返ってみると正面の地山が元々の地盤で、住宅開発のためこのレベルまで削られてしまったらしい



さて、ここは古城跡のエリアとされる金剛寺境内







本堂





本堂の裏手(西側)はこんな塩梅で古城跡の様相が見て取れる



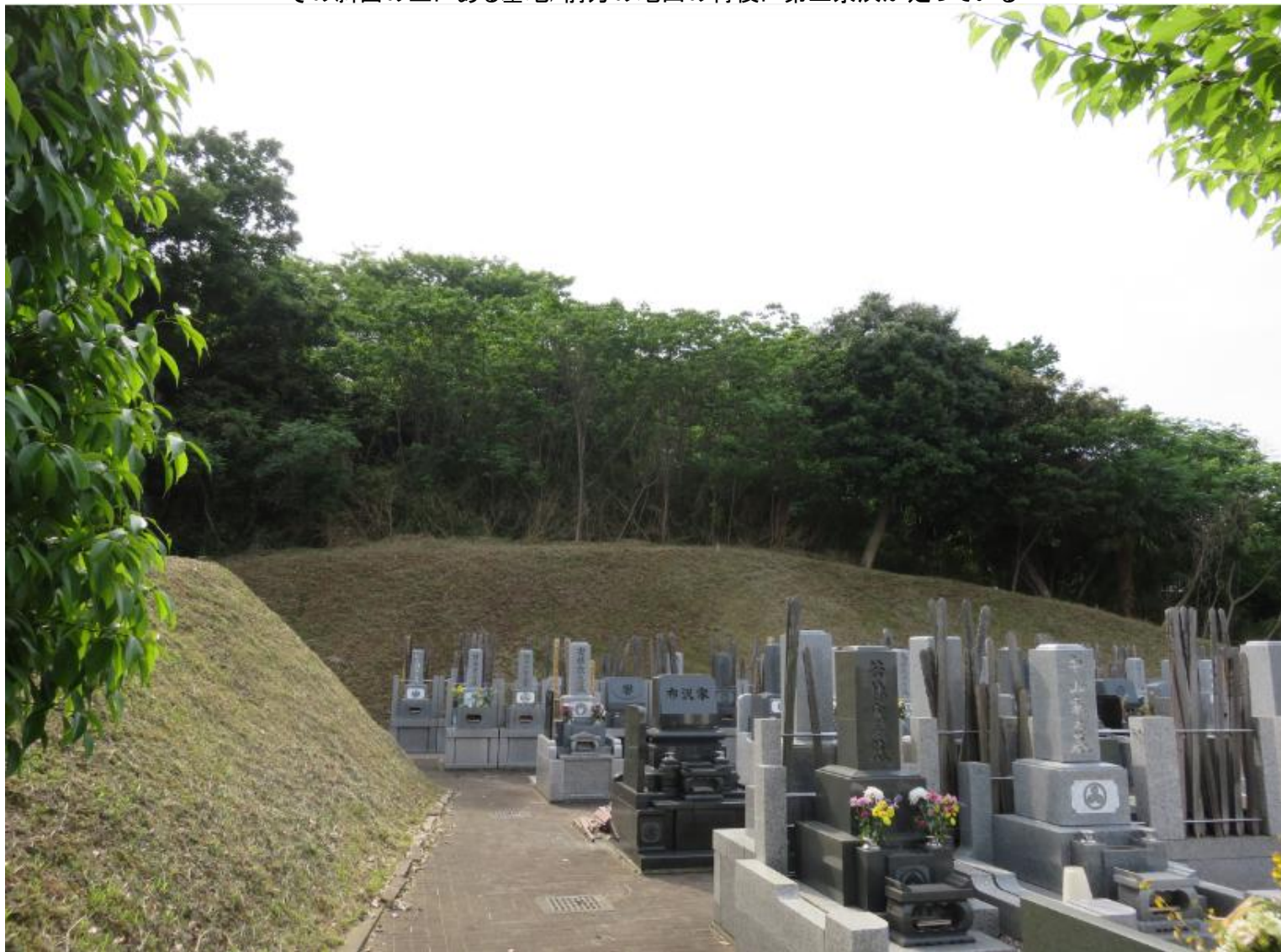
こちらから登ってみる



この斜面の感じが古城跡の城壘の名残りと言うことか



その斜面の上にある墓地/前方の地山の背後に第三京浜が走っている



北側を見下ろすと平場のようなエリアが見える



その平場の向こうにJR横浜線の線路が見える



これはそこから東方向を見たところ/日産スタジアムが見える



参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/007kanagawa/011kozukue/kozukue.html>

<http://yogokun.my.coocan.jp/kanagawa/yokohamasi.htm>

<http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Kanagawa/Kodukue/index.htm>

<https://senjp.com/kozukue/>

<http://kahoo0516.blog.fc2.com/blog-entry-11.html>

https://blogs.yahoo.co.jp/s04hi992ma/22728907.html?_yp=5bCP5py65Z%2B06Leh

<http://www.siromegu.com/castle/kanagawa/kodukue/kodukue.htm>

<https://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/study/castles/kodukuezyo.html>

http://www.gregorius.jp/photogallery/page_65.html

